

第11章 人づくり・環境学習等

第1節 人づくりの推進

1 ESD ユネスコ世界会議の成果の継承【環境政策課、環境活動推進課、生涯学習課】

県は、2014年11月に開催された「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」を通じて、環境面における「人づくり」を多様な主体と連携・協働して地域全体で取り組んでいくことが重要であることを改めて認識し、「人づくり」の推進に向けて取り組んでいます。

特に、ESD ユネスコ世界会議の「あいち・なごや宣言」では、①ユースをキーとなるステークホルダーに巻き込み尊重すること、②ユースの課題解決能力等の能力育成を強化することが重要とされたことから、県では、2015年度以降、次世代の地域の担い手となる大学生や高校生を対象にした「人づくり」プログラムを順次展開し、ESD ユネスコ世界会議の成果を踏まえた取組を推進しています。

なお、学校現場でのESDの推進拠点として位置付けられている「ユネスコスクール」に、本県では166校（2020年3月時点）が加盟・申請しています。

2 持続可能な未来のあいちの担い手育成【環境政策課】

（1）かがやけ☆あいちサスティナ研究所

県は、近い将来、地域の担い手となる大学生

が、グローバルな視点を持って、継続的に環境配慮行動を実施していくプログラムとして「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」を2015年8月に立ち上げました。本研究所は、大村知事を所長とし、パートナー企業から提示された環境面での取組に関する課題に対し、研究員である大学生が現場での調査や企業担当者とのディスカッションを通して、解決策を企業側に提案し、その成果を広くPRしていくものです。

（2）2020年度の研究所プログラム

2020年度は多くの応募者の中から選考された40名の大学生を研究員として採用しました。また、パートナー企業10社から研究員へ与えられた研究課題は、各企業が直面している環境に関する問題などであり、研究課題として魅力的な内容でした（表11-1-1）。

（3）研究員の活動

研究員は8月2日の開所式を皮切りに、チームごとに活動をスタートし、基礎講座（1日）、企業環境活動研究（4日）、中間発表会（1日）、研究成果発表会（1日）、出張成果発表会（2日）などの活動を実施しました。特に企業環境活動研究では、研究員は自主研究してきた内容と実際の現場との比較や、企業の担当者から生の声を直接聞くなど、非常に貴重な経験を得ていました。

表 11-1-1 2020年度パートナー企業からの研究課題

パートナー企業	研究課題	パートナー企業	研究課題
(株)サーラコーポレーション	サーラ環境にやさしいエネルギーをPRする体験型プログラムを検討せよ	中京テレビ放送(株)	ささしまライブをSDGsで活性化！人にやさしい未来の街づくりを検討せよ
中部テレコミュニケーション(株)	持続可能な社会に貢献する新たな通信コンテンツを検討せよ	東京海上日動火災保険(株)	～Ready to Go!～「地球を守る保険とサービス」に挑戦せよ
東レ(株)	持続可能な自然共生社会の実現に向けた取組を検討せよ	凸版印刷(株)	凸版印刷のリソースを活用してサスティナブルな社会に貢献する「食品ロスの削減」施策を検討せよ
日本ガイシ(株)	日本ガイシと持続可能な未来を考える、子ども向け教育プログラムを検討せよ	三井不動産産業マネジメント(株) ららぽーと名古屋みなとアクルス	ららぽーと名古屋みなとアクルスのSDGs発信地としての魅力・価値向上策を検討せよ
(株)メニコン	「地球に優しい」メニコンの環境ビジネスを提案せよ	吉本興業(株)	2030年を笑顔であふれる世界に！サスティナブルな地元の魅力を発信せよ

(4) 研究成果発表

研究員が開所式以来、4か月間をかけて、まとめた研究成果を発表する「かがやけ☆あいちサステイナ研究所 成果発表会 2020」を12月13日に開催しました。

研究員は、約200名の来場者の前で、チームごとに研究成果を8分間で発表しました。どのチームの提案も、大学生ならではのアイデアあふれるものであり、パートナー企業から「実現に向けて検討していきたい」などの評価をいただきました。

発表後には、修了式を実施しました。研究員代表者が大村知事から修了証を受け取り、今後の環境リーダーとして活躍する意気込みを述べ



修了証授与の様子

ました。大村知事は、研究員に対して、「コロナ禍の大変厳しい状況の中での活動を労い、「持続可能なあいちの担い手として更なる活躍を期待する」とエールを送りました。

また当日は、4名の審査員による審査で最優秀賞及びかがやき賞、来場者投票でオーディエンス賞を選定しました。



受賞チームの皆さん

栄えある最優秀賞には、環境問題をポジティブに捉え、積極的に未来を変えていくきっかけの場とする、小学生向けの「もっと“幸せ”な未来にしたくなる授業」を提案したチーム・日本ガイシが、かがやき賞にはチーム・東レが、オーディエンス賞にはチーム・メニコンが選ばれ、表彰を受けました。

3 中高年・シニア世代の環境学習推進【環境活動推進課】

県では、2018年度に養成した中高年・シニア世代の環境学習講師「あいちecoティーチャー」を小学校や環境学習施設等に派遣し、ごみや水に関する環境学習講座を実施しています（表11-1-2）。2020年度は講座を34回実施し、受講後には、「ごみに対する意識が高まり、正しく分別する児童が増えた」「手洗いや掃除などの際、節水を心がけるようになった」等、子どもの行動に変化が見られたとの声を多くいただきました。

また、「あいちecoティーチャー」は、県の環境学習施設である「あいち環境学習プラザ」で実施している環境講座でも講師を務める等、幅広く活躍しています。



講座の様子

表 11-1-2 環境学習講座

テーマ	講座名
ごみ	どこへいく？ プラスチックごみの真実！
	食べ物とごみのさかい目はどこ？ ～ごみをなくそう大作戦！～
水	地球上の少ない水でキミは何する？
	節水大作戦～ムダな水を探そう～
	水の惑星地球を救え！ ぐるぐるトルネード実験

4 高校生の環境学習推進【環境活動推進課】

2017年度から開始した「あいちの未来クリエイト部」は、県内の高校生のグループが専門家等の支援を受けながら、地域の環境に関する調査・研究を行い、その成果を基に環境学習教材を作成し、地域住民をはじめ広く県民に発信する活動です。

2020年度は、県立愛知商業高等学校ユネスコクラブ、県立佐屋高等学校科学部、県立豊田高等学校科学部・写真部の3グループが参加しました（表 11-1-3）。

（1）調査・研究活動

参加グループがそれぞれテーマを設定し、専門家から基礎講座や調査の方法の指導を受けながら、調査を実施しました。また、12月19日に開催した調査・研究発表会で成果発表を行いました。



徳川園での花粉源調査（県立愛知商業高校）
（2）環境学習教材の作成・活用

調査・研究の成果を基に、絵本や迷路、ボードゲーム等の教材を作成し、地元の小学生等に体験してもらいました。



小学校での教材の活用（県立豊田高校）

表 11-1-3 2020年度あいちの未来クリエイト部参加グループの調査・研究内容及び作成した教材

参加グループ名	調査・研究内容	作成した教材
県立愛知商業高等学校 ユネスコクラブ	校内で飼育するミツバチの花粉源及びミツバチの生態の調査	いただきますのむこうがわ（絵本） …主人公がミツバチの世界を体験し、ミツバチの働き等について学べる物語の絵本
県立佐屋高等学校 科学部	校内の有機栽培水田に食害をもたらす外来種スクミリンゴガイの生態や駆除方法、有機栽培水田内の生物相についての調査	田んぼ迷路・みつけ（迷路など） …迷路の中のスクミリンゴガイの数を数える等の指令に従って、スクミリンゴガイについて学べるワークシート
県立豊田高等学校 科学部・写真部	豊田市内を流れる伊保川・籠川の魚類を調査し、20年前の調査結果と比較して、川の変化を分析	川探検すごろく（ボードゲーム） …川の探検し、川で遊ぶ際に気を付けることや川の生きものについて学ぶことができるすごろく

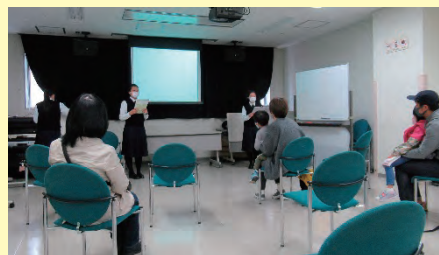
県は、高校生の環境学習を推進するため「あいちの未来クリエイト部」を実施しています。この度、2020年度 of 取組に参加した高校生が、自分たちで作成した教材を実際に地域で活用しました。

○県立愛知商業高等学校 ユネスコクラブ

「いただきますのむこうがわ」と題した絵本を作成し、2021年3月25日に名古屋市東図書館にて、読み聞かせ会を実施しました。小さな子どもたちも、ミツバチの物語にじっと聞き入っていました。



いただきますのむこうがわ



読み聞かせ会の様子

○県立佐屋高等学校 科学部

「田んぼ迷路・みっけ」と題した迷路等のワークシートを作成し、2021年3月16日に愛西市立市江小学校の5年生に体験してもらいました。児童たちは高校生に教えてもらいながら迷路等に取り組み、生態系等に影響を及ぼすおそれのある外来種であるスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の生態や田んぼの被害について楽しく学ぶことができました。



田んぼ迷路・みっけ



小学校での教材体験の様子

○県立豊田高等学校 科学部・写真部

「川探検すごろく」と題したボードゲームを作成し、2021年3月23日に豊田市立伊保小学校の2年生に体験してもらいました。児童からは「もっと魚のことを知りたくなった」等の感想が挙がり、川で遊ぶ際に気を付けることや、川に生息する魚について楽しく学んでもらうことができました。



川探検すごろく



小学校での教材体験の様子

あいちの未来クリエイト部では他にも様々な教材が作成され、これら全ての教材を「あいち環境学習プラザ」で貸出していますので、是非ご活用ください。教材や貸出方法の詳細はWebページを御覧ください。(https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/program.html)

5 未就学児を対象とした自然体感プログラムの推進【環境活動推進課】

県では、「もりの^{まなびや}学舎」において、人と自然をつなぐ役割を果たす森の案内人「インタープリター」により、幼いうちから自然に触れ、学び、気付きを得る機会を提供する事業を実施しています。

(1) もりの学舎ようちえん

未就学児とその保護者を対象に、もりの学舎やその周辺で、四季を通して自然体感プログラムを実施しています。

2020年度は29組の親子が5回のプログラムに参加し、インタープリターとともに森の探検や、森の木を使ったスプーン作りなどを行い、楽しみながら自然とふれあいました。参加した保護者からは「子どもの自然体験



自然観察の様子

の機会がなかなかないので、今後も続けて欲しい」との声をいただきました。回を重ねるごとに、子どもたちが五感を使って自然を楽しめるようになり、自然に対する感性が育まれている様子が伺えました。

(2) 一日もりの学舎ようちえん

県内の幼稚園・保育園等を対象に、もりの学舎やその周辺で1日（又は半日）で行う自然体感プログラムを実施しています。

2020年度は6園が参加し、参加した園からは「落ち葉や木の実・きのこなど、都会では見られないものや体験できないことを自然の中で学ぶことができた」との声をいただきました。



自然体感プログラム
「森の中をおさんぽ」

(3) 森の伝道師派遣

インタープリターを県内の幼稚園・保育園等に派遣し、園庭等の身近な環境を使った自然体感プログラムを実施しています。

2020年度は17園で実施し、参加した園からは「今まで子どもたちが気づけなかった視点で発見したり、葉の形などにも関心を持つようになった」という声をいただきました。



自然体感プログラム
「葉っぱでお絵かきしよう」

(4) 子ども自然体感活動指導者養成研修

幼稚園教諭、保育士やその職を志す学生等を対象に、園児に自然体感プログラムを実施するノウハウを身に付ける研修を実施しています。

2020年度はくさばなコースといきものコースで研修を実施し、両コースで30人ずつが参加しました。

また、2020年度から新たに環境学習施設職員を対象とした研修を実施し、愛知こどもの国での研修に7人、弥富野鳥園での研修に8人が参加しました。

参加者は自然体感プログラムを体験することで感性を広げるとともに、未就学児に対してプログラムを実施するスキルを学びました。参加者からは「自然に対する感じ方が変わった。自然に興味を持ちながら子どもと一緒に新しい気づきを発見していきたい」「日常の自然の中に遊ぶヒントがたくさんあるのだと知った」などの声をいただきました。



プログラムの体験

6 エコアクションの推進

(1) あいちエコアクションの推進【環境活動推進課】

県では、県民の環境に対する意識を地域全体の行動へと広げていくため、地球にやさしい身近な環境配慮行動を实践へとつなげる「あいちエコアクション」を推進しています。

この「あいちエコアクション」の輪を大きく広げていくために、県民参加型の啓発イベントを開催するとともに、県内の環境学習施設と連携した取組を実施しています。

ア 啓発イベントの開催

エコアクションを楽しみながら学ぶことができる県民参加型の啓発イベントとして、2014年度から「Let's エコアクション in AICHI」を開催しています。2020年度は、一宮市の協力を得て11月28日（土）に尾張一宮駅前ビル（i-ビル）において開催し、約590の方が来場されました。

「エコマジシャンミヤモ」によるエコマジックショー、「劇団シンデレラ」によるミュージカル、「一宮七夕まつりミス七夕」によるエコクイズ大会やあいちエコアクション広報部のOS☆Uによるスペシャルステージ、Myエコアクション宣言、環境を題材としたワークショップなどにより、子どもから大人までの幅広い層にエコアクションへの理解を深めていただきました。



「劇団シンデレラ」による
ミュージカル



ワークショップ

イ ^{あえる}AELネット環境学習スタンプラリーの実施

県内の環境学習施設や市町村などのネットワークである愛知県環境学習施設等連絡協議会（AEL ネット）を活用して、県民の皆様に気軽に楽しく「エコアクション」へと踏み出す機会を県内各地で提供しています。

AEL ネットは「Aichi Environmental Learning Network」の頭文字をとったもので、2021年10月末現在で185施設等38市町が加盟しており、これらの施設等では、環境全般、エネルギー、自然、ごみを減らす3R、水環境などについて学習することができます。

2020年度はAEL ネット加盟施設のうち168施設等が連携して環境学習スタンプラリーを実施し、22,218人が参加しました。

クローズアップ

「^{あえる}AEL ネット環境学習スタンプラリー」に「電子スタンプ帳」を導入しました

県では、楽しく環境の大切さについて学んでいただくため、毎年 AEL ネットに加盟する県内の環境学習施設等と連携して、「AEL ネット環境学習スタンプラリー」を実施しています。

スタンプラリー対象施設への来館や講座・イベントへの参加により、スタンプを 3 個以上集めて応募いただくと、抽選で図書カードなどの記念品をプレゼントしています。

2020 年度からは、新たに AEL ネット環境学習スタンプラリーの Web サイト (<https://ael-stamp.jp>) を立ち上げ、対象となる施設や講座・イベントに関する詳細情報等を手軽に検索できるようになりました。また、従来の「紙版スタンプ帳」に加えて、スマートフォン等を使用して QR コード※を読み取る「電子スタンプ帳」でもスタンプが集められるようになりました。

電子スタンプ帳を利用した参加者からは、「スマホなら紙版スタンプ帳を持参しなくてもいいので気軽に楽しめる。」などの声をいただきました。

2021 年度のスタンプラリーは、2021 年 6 月 22 日から 2022 年 2 月 23 日まで開催しています。この機会に是非多くの施設を訪れていただき、自然・エネルギー・ごみ・水環境など、様々な環境分野について楽しく学んでください。

※QR コードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



対象講座・イベントの様子



電子スタンプ獲得画面



スタンプ帳 (QR コード読み取り後の画面)

(2) 自発的な環境配慮活動の促進

ア 食を通じた環境配慮活動の促進【食育消費流通課】

県は、「あいち食育いきいきプラン2020」（第3次愛知県食育推進計画（2016年3月作成））において、「食を通じて環境に優しい暮らしを築くこと」を食育推進の柱の一つとして設定しています。この中で、「食べ物を残さず食べるようにするなど、学んだ知識をもとに自ら行動する」、「食べ残しや食品の廃棄を減らす」などの県民の主体的な取組を促すとともに、実践促進に向けた県や関係団体等による10の取組項目を掲げています。

これまでに、県、関係団体、市町村等が様々な取組を実施していますが、「むだや廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている」県民の割合は、2020年度では45.8%で、2015年度（41.8%）から改善しました（目標は2020年度50%以上）。

また、2020年度の主な食育の取組について「あいち食育いきいきレポート2021」を県が作成し、広く関係者に紹介しています。このうち環境配慮活動に関しては以下の取組を始めとする11事例がありました。

【環境配慮活動の具体的取組】

○食生活における環境への配慮の徹底

食品ロス削減イベントの開催、無駄や廃棄の少ない調理講習会など

○農林水産業への理解と地産地消の一層の推進

あいちの農業用水展、SNSを利用した食育啓発事業など

○農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底

ドライブスルー型「フードドライブ」の実施など

さらに、2021年度からスタートした「あいち食育いきいきプラン2025」（第4次愛知県食育推進計画）においても、「食を通じて環境に優しい

暮らしを築く取組」を継承しており、今後も引き続き活動を促進していきます。

イ グリーン購入の促進【環境活動推進課】

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。

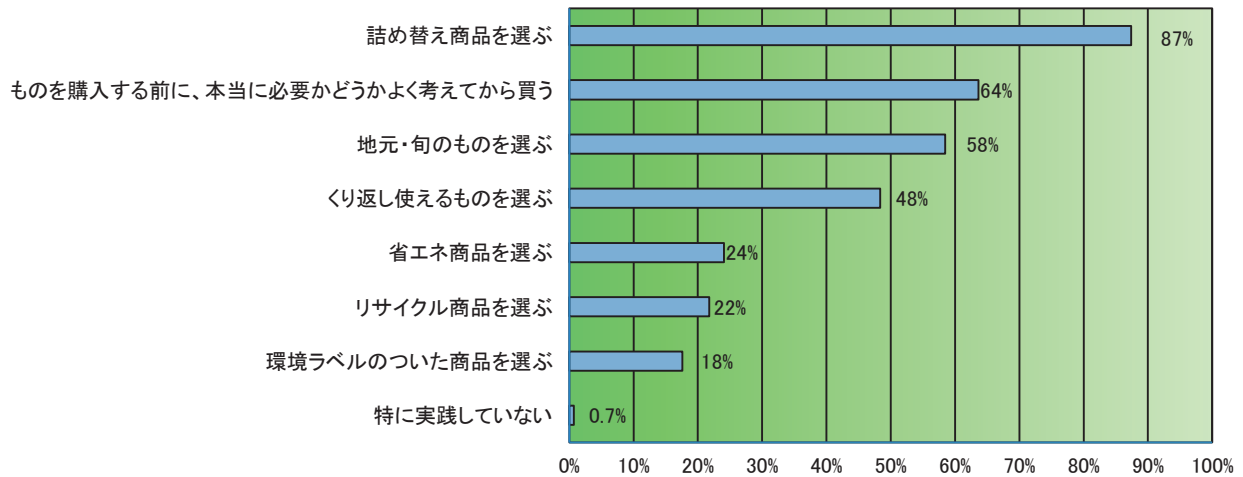
グリーン購入は、消費生活など購入者自身の活動を環境にやさしいものにするだけでなく、供給側の企業に環境負荷の少ない製品の開発を促すことで、経済活動全体を変えていく可能性を持っています。

県は、岐阜県、三重県、名古屋市、環境ラベルの管理運営団体、グリーン購入の普及推進団体、スーパーマーケットやドラッグストアなどの販売店、メーカーなどと協働して、2002年度から毎年度「東海三県一市グリーン購入キャンペーン」を実施し、グリーン購入の普及に努めています。

2020年度は、2021年1月22日から2月21日までの1か月間をキャンペーン期間として、東海三県内等の4,638店舗とともに、以下の取組を実施しました。

- ① 店舗内でのポスター、POP等の掲示や、詰替商品、環境ラベル商品、旬のもの・地のもの等のグリーン購入対象商品を集めたコーナーの設置
- ② グリーン購入対象商品の購入者を対象に、環境に配慮した商品のセット等が当たる懸賞応募を実施
- ③ 環境対応商品の紹介など、協力店舗による独自企画を実施
- ④ キャンペーン前に店舗やメーカーの担当者を対象に、当年度実施する取組の内容について意見を聴取し、キャンペーン終了後に店舗・メーカー・環境ラベル団体の担当者を対象にキャンペーンの実施報告及び次年度以降の効果的な実施等に関する意見を聴取

図 11-1-1 普段の買い物で実践している「グリーン購入」（キャンペーン参加者へのアンケート結果）



(注) 2021年1月22日～2月21日実施 (資料) 東海三県一市グリーン購入キャンペーン実行委員会調べ

クローズアップ

エシカル消費ポータルサイト 私が変わる 未来を変える「エシカル×あいち」を開設しました

県では、持続可能な社会の実現に向けて、人や社会、地域、環境に配慮した商品やサービスを選んで消費する「エシカル消費」について、広く県民の皆様へ普及啓発するためのポータルサイト「私が変わる 未来を変える『エシカル×あいち』」を2021年3月26日に開設しました。

消費者一人ひとりの行動が世界の未来を変える“チカラ”を持っていることに気づき、実感してもらう“きっかけ”となる情報を、様々な人たちとのパートナーシップにより発信していきます。

本サイトでは、エシカル消費の具体例や、県や市町村、団体、事業者等の取組・活動紹介、エシカル消費チェックリストなどのコンテンツを掲載しています。是非、御覧いただき、「エシカル消費」の魅力を感じてください。



ポータルサイトトップページ

ポータルサイト URL : <https://www.pref.aichi.jp/kenmin/ethical/>

詳しくはこちらへ

エシカル消費 愛知県 検索



ウ 地域環境保全委員の設置【環境活動推進課】

県は、地域における環境の状況を把握し、その保全に関する活動を推進するため、**愛知県環境基本条例**第19条の規定に基づき、地域環境保全委員を設置しています。

委員は、地域における環境保全に関心及び知識を有し、かつ、環境保全に関する活動に熱意を有する人の中から、市町村長の推薦を受けて知事が委嘱しており（定員200人）、それぞれが

担当市町村において以下のような活動を行いました。

- 地域の環境の状況調査・報告
- 県が行う環境保全施策への協力・環境保全に関する啓発、指導等
- 地域における環境保全のための自主的な活動への参画、指導等
- 県が主催する地域環境保全連絡会議等への出席

第2節 環境学習等の推進

1 環境学習の推進【環境活動推進課】

環境問題は、私たちの暮らしや経済・社会と密接に関わっており、環境問題を解決するためには、問題の本質や取組の方法を自ら考え、解決する能力を身に付け、何よりも行動に結びつけていく環境学習が不可欠です。

このため、県は、2005年1月に「**愛知県環境学習基本方針**」を策定し、「**あいち環境学習プラザ**」及び「**まなびや**」を拠点にして、環境学習講座などを実施してきました。

2012年10月に**環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律**が施行されたことに伴い、県では2013年2月に「**愛知県環境学習等行動計画**」を策定しました。その後、2018年3月にこれを見直し、持続可能な社会を支える「行動する人づくり」を目的とした「**愛知県環境学習等行動計画2030**」（以下本節において「**行動計画2030**」という。）を策定し、環境学習の一層の推進に取り組んでいます。

（1）愛知県環境教育等推進協議会の開催

県では行動計画2030の推進のため、学校教育及び社会教育の関係者、県民、事業者、NPO、学識経験者、行政等で構成する**愛知県環境教育等推進協議会**を設置しています。

2020年度は協議会を1回開催し、行動計画2030の推進に関する意見交換等を行いました。

（2）環境学習の拠点施設での取組

ア あいち環境学習プラザ

2020年4月に環境調査センター1階に移転した「あいち環境学習プラザ」では、体験型学習や実際の環境分析現場の見学等、施設の特徴を生かして楽しく環境について学ぶことができます。また、小学校の授業としても活用できるよう、2020年度から本格実施された学習指導要領に対応した環境学習講座を実施しています。



あいち環境学習プラザ



県の環境学習施設の拠点である「あいち環境学習プラザ」は、子どもたちが環境について楽しく学び、かつ温かみを感じてもらえるよう、各所に県産の木材を使用し、『環境技術』と『環境学習』で育む、未来のあいちの人づくり」をコンセプトに、環境問題と私たちとのつながりを学び、未来に向けて行動できる人づくりを推進しています。

あいち環境学習プラザ 概要

開設日：2020年4月1日（リニューアルオープン）
 場所：愛知県環境調査センター1階
 （名古屋市北区辻町字流7-6）
 開館日時：月曜日～金曜日 9時～17時
 （土曜日、日曜日、祝休日及び
 年末年始は休館）
 その他：入館料無料、バス駐車場あり、
 昼食会場あり、団体利用は要予約
 ホームページ：http://kankyojoho.pref.aichi.jp/plaza/

1 施設概要

親しみやすいキャラクターを配したハンズオン（体験）展示やタブレットを使った学習などにより、環境問題やSDGsなどについて、見て、聴いて、触って、考えることのできる、遊びの要素を取り入れた展示や映像を導入しています。



施設見学の様子

2 環境学習講座の実施

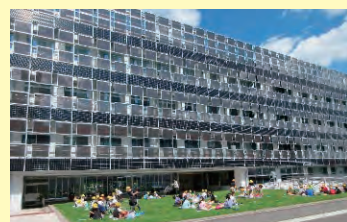
2020年度から本格実施された新学習指導要領に対応した環境学習講座を実施しています。工作や実験などの参加体験型の内容で、環境に配慮した行動を促すプログラムとなっています。夏休み等には親子向けの環境学習講座も実施しています。



環境学習講座の様子

3 環境分析業務・施設の見学

学校の社会見学等では、環境調査センターの業務フロアを見学することができ、実際の環境分析現場を御覧いただけるとともに、シースルー型太陽光発電パネル等、様々な新エネ・省エネ設備も見学することができます。



施設の外観

4 「あいちeco^{エコ}ティーチャー」を派遣する環境学習講座の実施

社会経験豊富な中高年・シニアを対象に県が養成した「あいちecoティーチャー」を環境学習講師として小学校や環境学習施設等に派遣し、子ども達が環境について楽しく学べる講座を実施しています。水とごみをテーマにした5つのオリジナル講座です。



派遣講座の様子

5 環境学習コーディネート業務

環境学習を受けたい方と、環境学習を提供できる方の橋渡し役を担う「環境学習コーディネーター」の相談・受付等を行っています。環境学習の内容や実施方法、場所、講師、教材、活用する環境学習施設など、環境学習の実施全般についての相談に応じるとともに、必要に応じて関係者との調整を行っています。

イ もりの^{まなびや}学舎

自然体験型の環境学習施設「もりの学舎」では、愛知万博で実施されたプログラムを継承・発展し、土・日・祝日等を中心に様々な環境学習プログラムを実施しています。

また、2011年度からは企業等と連携・協働した学習プログラムも実施しており、開館（2007年3月）以来の入館者数は617,702人、プログラム参加者数は256,852人（2021年3月末時点）となっています。

もりの学舎連携企業等一覧
（2020年度、五十音順）

(一社)愛知県環境測定分析協会
(一社)愛知県産業資源循環協会
(公財)愛知臨海環境整備センター
(株)環境科学研究所
積水ハウス(株)
(一財)東海技術センター
東邦ガス(株)
名古屋キワニスクラブ
(株)みらいアセット

【2020年度「もりの学舎」事業実施状況】

○プログラム参加者数：6,712人

内 容	参加者数
インタープリターとあるく森のツアー(毎週土・日・祝日) インタープリターともり遊びにいこう(毎週土・日・祝日) など	2,129人
あそび工房 インタープリターによる自然素材やリサイクル素材などを使った工作教室 (GWや夏休みなどの特定日、1日2回又は3回)	1,334人
その他の事業 もりの学舎キッズクラブ、おさんぽ de いきものみつけ、夏・冬おやこクラブなど(随時開催)	3,249人



あそび工房



おさんぽ de いきものみつけ

○来館者数：10,961人

(3) 環境学習コーディネーターの活用

環境学習は、具体的な行動に結びつけていくことが重要であり、そのためには、地域を教材とした自然体験や社会体験などを通して実感を持って学ぶことが非常に有効です。また、このような体験型の環境学習を地域や学校等で推進するためには、地域、学校、NPO、事業者、行政等が連携・協働し、各主体のノウハウを生かしあうことが重要です。

このため、県では2013年度から「環境学習コーディネーター」を「あいち環境学習プラザ」に配置し、講師・活動場所の紹介といった相談業務や、講師と相談者との講義の日程や学習内容の調整などを行うコーディネート業務を実施しています。

2020年度の依頼件数は、相談業務が6件、コーディネート業務が5件でした。

(4) 愛知県環境学習施設等連絡協議会の運営

県は、愛知県環境学習施設等連絡協議会(AELネット)を設置し、県内の環境学習施設や市町村等が保有する環境学習プログラムや指導のノウハウ等の情報を共有し、各施設間のネットワークづくりを進めています。

2020年度は、協議会を2回開催し、あいち環境学習プラザの見学やAELネットへの新規加盟施設の事例紹介等を行いました。

(5) こどもエコクラブ活動への支援

環境省の呼びかけにより始まった「こどもエコクラブ」は、子どもたちが地域の中で楽しみながら自主的に環境活動・学習を行うクラブで、県内では、2020年度末で44クラブ2,246人がリサイクル・美化活動・自然観察会などの活動を行って

います。

県は、地方事務局としてこどもエコクラブの活動を支援しました。

2 学校における環境教育の推進【環境活動推進課、義務教育課、高等学校教育課】

学校教育における環境教育は、社会科(高等学校においては、地理歴史科及び公民科)、理科、生活科、家庭科(中学校においては技術・家庭科)、保健体育科等の関係教科、道徳科及び総合的な学習(探究)の時間、特別活動、自然科学部等の探究活動等、それぞれの目的に即して取り上げられています。

2020年度は、学校における環境教育の推進を図るため、次の事業等を実施しました(表11-2-1)。

表 11-2-1 学校における環境教育推進事業例 (2020年度)

事業	内容
環境学習副読本の作成・配付	県内の小学校の4年生に対し、環境学習副読本「わたしたちと環境」を作成・配付(名古屋市立は各校1冊配付)
心の教育推進活動の実施	県内の小・中学校において、家庭・地域との連携を基盤に、環境保護、自然との触れ合い、奉仕、福祉等の体験を重視した教育活動を実施

(資料) 環境局・教育委員会調べ



2020年度版環境学習副読本

3 環境月間行事の実施【環境活動推進課】

1972年6月5日から2週間、スウェーデンのストックホルムで国連人間環境会議が開催されたことから、国連は6月5日を「世界環境デー」と定め、日本でも環境基本法により「環境の日」と定めています。

また、環境省の主唱により、1991年度から、毎年6月の1か月間を「環境月間」(1973年度から1990年度までは6月5日を初日とする週間を「環境週間」としていました。)とし、環境

問題の重要性を認識するとともに将来に向かってよりよい環境を創出するための努力と決意を新たにする機会として、各種の記念行事が実施されています。

県では、県民の環境保全意識の高揚を図り、快適な生活環境の保全に資することを目的として、県内の環境の保全に関し顕著な功績のあった団体・個人に対して、知事による表彰を行っています。2020年度は、1団体及び39名を表彰しました。

第3節 SDGs達成に向けた「人づくり」の推進

1 SDGs達成に向けた「人づくり」の取組等【環境政策課、企画課】

持続可能な開発目標(SDGs)は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年まで

の国際目標で、17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

県は、2019年7月に内閣府から持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域として

「SDGs 未来都市」に選定され、知事を本部長とした「愛知県 SDGs 推進本部」を設置するとともに、SDGs の達成期限である 2030 年の愛知県のあるべき姿や、SDGs の達成に向けて今後 3 年間に先導的に進める取組を記載した「愛知県 SDGs 未来都市計画」（計画期間：2019～2021 年度）を策定し、全庁を挙げて取組を推進しています。

SDGs の実現に向けては、企業・大学・NPO など多様なステークホルダーが、環境、社会、経済分野の様々な問題を統合的に解決できる人材「SDGs の担い手」となり、主体的に行動していくことが

必要であるため、県は、「SDGs の担い手」を育成する取組を推進しています。

2020 年度は、次代を担う中学生に、SDGs について意識しながら行動する重要性を学んでもらうための冊子「中学生のための SDGs スタートブック」を作成し、県内の中学 1 年生全員に配布できるように、県内全ての中学校へお届けしました。

また、SDGs の解説や、本県を始め県内事業者等の取組などの情報をまとめた Web ページ「あいち SDGs Action」を作成し、県内の取組を広く PR しています。

【「愛知県 SDGs 未来都市計画」における 2030 年の愛知県のあるべき姿】

「世界をリードする日本一の産業の革新・創造拠点」（経済面）、「人が輝き、女性や高齢者、障害のある人など、全ての人活躍する愛知」（社会面）、「県民みんな未来へつなぐ『環境首都あいち』」（環境面）の調和のとれた、活力と持続力を兼ね備えた大都市圏を目指します。

第4節 国際環境協力の推進

1 国際環境協力の推進【環境政策課】

1960 年代の深刻な公害を克服してきた本県には、公害防止対策に関する知識、経験等の大きな蓄積があります。アジア諸国を中心に公害に悩む開発途上国は多く、それらの国々に対し、県は

（独）国際協力機構（JICA）などと提携した環境協力を進めてきました。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、開発途上国の行政職員等の受入れ実績はありませんでした。